

No.17

メイトルの つばやき

杉原千畝氏に助けられた生存者の話



みなさん、お元気ですか？
最近、だんだん暖かくなってきましたね。この季節に八百津の町を散歩することは素晴らしいことだと思います。私は春にピクニックへ行くことがとても好きです。ピクニックは自然の素晴らしさを堪能できるいい機会だと思います。そして、ピクニックで食べる食事は、最高の幸せを感じることができますよね。

4月19日にホロコースト記念日が行われました。「ホロコースト」というのは第二次世界大戦中、ナチスドイツによりヨーロッパのユダヤ人に対して起こされた大虐殺のことです。その記念日は、ホロコーストの犠牲者とユダヤ人の勇気を称えたものです。その日、午前11時に2分間サイレンが流れると国民は足を止め、黙祷をささげます。そして、学校や大学などでは特別な儀式が行われています。ある学校は「生存者の証言」という企画を行います。その企画で学生たちはホロコーストの生存者と会います。今、生存者の最後の世代が生存しています。生存者から話を聞くのは最後の機会ということです。

みなさんをご存じのように、ホロコースト中、6,000人もの命が杉原氏の英断により救われました。実は、杉原氏のおかげで、今日は、約250,000人が生きています。つまり、杉原氏の生存者は新しい世代を生み出すのです。



私は、数ヶ月前に、杉原氏に助けられた生存者の一人からメールを受け取りました。彼はアレクスと言います。そのメールは、ホロコースト時代の体験が書かれてありました。私は生存者の話に触れる時、いつも深く感動します。今回、そのメールの内容についてお話したいと思います。

1940年、アレクスさんは当時、5歳でした。ポーランドの降伏の一週間後、アレクスのお父さんは、すぐにポーランドを離れることにしました。アレクスさんは家族と一緒に、1940年1月1日、リトアニアの国境を越えました。その後、リトアニアのビリニュスに住んでいました。アレクスさんのお父さんはビザを必死に探しました。しかし、ビザが発行さ

れずスリナムの偽造ビザを作成しました。そして、杉原氏はおそらくアレクスさん一家のパスポートが偽造ビザであることがわかっていたのでしょうか…アレクスさんの一家に日本の通過ビザを与えました。1940年11月に



アレクスと彼の家族はビリニュスを出てロシアのモスクワに行き、シベリア横断の列車に乗りました。そして、ウラジオストクに着き、フェリーに乗り、12月に日本の敦賀に到着しました。その後、神戸に行きました。やっと、アレクスさんの

家族は、日本の地で落ち着くことができました。アレクスさんのメールには、「私は、日本に滞在した時の楽しい思い出があります。」と書いてあります。例えば、お姉さんと一緒に毎日、お菓子を買うためホテルの向こう側にあるキヨスクに行ったという思い出です。

1941年6月日本を離れました。そして、カナダのバンクーバーまで出航しました。今、アレクスさんは奥さんと一緒にイスラエルに住んでいます。「私は孫たちを見る度に、勇敢な行動をした杉原氏に心から感謝している」とメールに書かれてありました。今、私たちは快適な生活を送っています。毎日暮らしていると自由な生活が、当たり前と感じてしまいます。今、こうして自由に生活を送っていることは、本当に幸せなのだと思います。自由に生活を送っていると、「自由」の本当の意味についてあまり考えないでしょう。ホロコースト時代に生きたユダヤ人にとって自由というものはとても貴重なものでした。ユダヤ人たちは、日本にたどり着いた時、自由を感じ、その時のことを鮮明に覚えています。

私たちにとって、コンビニやキヨスクなどでお菓子やジュースを買うのは当たり前のことです。でも、アレクスさんにとって、キヨスクでお菓子を買ったことは、本当に貴重な思い出なのです。

メイトルさんへの質問は
meital@town.yaotsu.lg.jp までどうぞ！